

富山県知事 石井隆一 殿

「県民全体で支えるとやまの森づくり」に関する提言

平成18年5月19日

とやまの森づくり推進方策・財源検討委員会

本委員会では、県民全体で支えるとやまの森づくりの実現に向けて、昨年11月から現地説明会ほか5回の委員会を開催し、その検討結果を別添のとおり「とやまの森づくり推進方策・財源検討委員会報告書」として取りまとめました。

そのなかで、富山県の森林を将来にわたって守り育て、県民全体で支える森づくりを進めていくために特に重要と考える点について、以下のとおり提言します。

平成18年5月19日

とやまの森づくり推進方策・財源検討委員会

会 長 八 嶋 健 三

1. 県民参加による水と緑の森づくりの推進

森林所有者のみならず、県民全体で富山県の森を守り育てていくためには、森林の現状と公益的機能などについて、多くの県民の理解のもと、県、市町村、森林ボランティアを含め幅広い県民と連携し、活動内容の充実を図り、より多くの県民の参加による水と緑の森づくりを推進されたい。

このため、普及啓発活動が極めて重要であり、森林教室などの普及啓発事業を行うほか、多様な広報手段を用いて、県民への情報提供を行い、森づくりを支える県民意識の醸成に努められたい。

また、森づくりは長期的、継続的に取り組んでいく必要があるため、県内各界各層の代表者や有識者から意見をいただきながら推進することが必要である。そのためのふさわしい組織について検討されたい。

2. 県民全体で支える森づくりの仕組みづくり

県民参加の森づくりを進めるにあたっては、県民の理解を得て、具体的な費用負担の仕組みと森づくりの財政基礎をつくるため、新たに県民税均等割への一定額の上乗せ（超過課税）を導入し、その使途についても県民にわかりやすく説明するために基金を創設されたい。

3. 総合的な森づくり条例の早急な制定

森づくりは、県民の意向に沿って、長期的、継続的に取り組んでいく必要があり、県政においても将来にわたる政策の柱として位置付けることが重要である。

「とやま水と緑の森づくり検討委員会」や本委員会での検討結果を踏まえ、また、県民説明会やパブリックコメントにおいても大方の賛同が得られていることから、富山県としての森づくりの理念、施策の基本方針、県の計画策定、そのための財源確保方策等を盛り込んだ、全国初の総合的な条例をできるだけ早期に議会へ提案されたい。